

3 ミヤコタナゴ再導入に向けた目標設定

羽田にミヤコタナゴを再導入するにあたっては、ミヤコタナゴが安定して生息できるような生息環境の整備目標を描こうと考えております。現在の水路内でミヤコタナゴが成長、繁殖できることは今までの試験放流結果から明らかになりつつありますが、再生産が十分にできる環境でないこともわかってきました。1つの要因として、マツカサガイが十分に生息できる環境でないことがあげられます。ミヤコタナゴはマツカサガイがないと繁殖できません。そのマツカサガイの生息がここ近年思わしくありません。

その為、マツカサガイやミヤコタナゴを取り巻く環境を復元させるために、生息水路の環境整備だけでなく、羽田沼周辺も含めた環境目標像を描こうと考えています。生息水路は、羽田沼からの水によって支えられています。今までは生息水路の環境を中心に考えてきましたが、そもそもそのことが間違いであったようにも考えられます。ミヤコタナゴを取り巻く環境は、生息水路の環境だけではなく、羽田沼周辺の環境も大きく影響していることが次第に明らかになってきました。

そこで、過去の資料や写真等からミヤコタナゴが生息していた頃の環境を読み取り、近代化された営農状況、生活様式を踏まえたうえで羽田沼周辺の環境目標を設定していきます。環境目標の設定は簡単な作業ではありません。みなさんと一緒に知恵を絞りながら行っていきたいと考えております。

4 本年度の活動を振り返って

平成28年度は、2年ぶりにミヤコタナゴの試験放流を行い、羽田沼にある取水塔を改修した効果を検証する年となりました。試験放流されたミヤコタナゴやマツカサガイからの答えは「生息環境が改善されつつある」との回答であったと思います。さらに今年度は新たな試みとして、「ミヤコタナゴを取り巻く環境の復元目標を設定しよう」ということで、過去の羽田周辺の環境がどうなっており、どのように変化してきたかを探り始める1年でもありました。今までにない新たな発見や「なぜミヤコタナゴやマツカサガイが減少していったか」について、水質だけではなく別の要因も関係していたであろうことも、少しずつ明らかになってきております。今後も継続して作業等を進めていきたいと考えております。地域の皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

主な実施事項	平成28年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地元会議		●		●								●
専門家会議		●								●		
ミヤコタナゴ通告の発行					●				●			●
水路の補修・生息水路周辺の環境整備											→	→
ミヤコタナゴ試験放流			●									
ミヤコタナゴ生息調査			●					●				●
稚貝導入試験				●								●
周辺水路の生き物調査				●								
環境復元目標の設定												→
実施事項の評価・検証												→

5 来年度の活動について

12月から1月にかけて行われました第3回地元会議、専門家会議で、来年度行うおおまかな作業の方向性が議論されました。その中で決定している内容について来年度重点的に行っていく方向です。詳細な手法や時期等につきましては、再度関係者の皆様により協議を重ね実施していきます。

来年度実施していく主な試験及び作業は以下の通りです。

- ミヤコタナゴの試験放流、稚貝の導入試験は、羽田沼取水塔の改修効果をモニタリングするため継続して実施する。
- 羽田沼からの取水状況について、水量、取水状況などについてデータを収集する。
- ミヤコタナゴが安定的に生息できる環境整備目標を設定する。
- 設定した環境整備目標に対し、対応可能なものから作業を開始する。

問い合わせ先：大田原市文化振興課文化財係
 TEL 0287-98-3768
 FAX 0287-98-7124
 E-mail bunka@city.ohtawara.tochigi.jp